

教師用指導案「東京 1964 大会のレガシー」

- 対象： 中学生
- 本時のねらい： 東京 1964 大会が日本に残したものについて理解する。
- 準備物： [東京 2020 組織委員会ウェブサイト](#)
オリンピック・パラリンピック学習読本中学校編
- 適用可能な学習時間： 総合的な学習の時間、学級活動、社会科、保健体育理論 等

時間	学習活動	指導上の留意点	参照資料等
導入 (5分)	1) 本時の見通しを持つ 【発問】大会の開催により有益な遺産(レガシー)を開催国と開催都市に残すことが求められている。東京 1964 大会のレガシー(有形と無形)はどのようなものだったのでしょうか?	東京 1964 大会のレガシーについて何が考えられるか、発表させる。	オリンピック・パラリンピック学習読本 中学校編 p.38
展開 (20分)	2) 東京 1964 大会の有形レガシーには次のものがある。 ・ 東海道新幹線や東京モノレールなどの交通網 ・ 首都高速道路などの道路網 ・ 旧国立霞ヶ丘陸上競技場や駒沢オリンピック公園総合運動場、日本武道館などの競技施設 無形のレガシーは次のもの ・ スポーツ振興法が作られ、国や地方公共団体が市民のためにスポーツ環境を整え、スポーツに取り組む仕組みづくりが始められた。 ・ 街の美化運動がはじめられたことである。	第二次世界大戦で、東京が焼け野原となったが、その後 19 年で完全に復興した大都市になり、高い技術力で都市のインフラを整備したことを理解させる。 東京 1964 大会以降に国民がスポーツに親しむようになって行ったことに気づかせる。	オリンピック・パラリンピック学習読本 中学校編 p.38-41
(15分)	3) 東京 1964 パラリンピックのレガシーとして、その後に障がい者スポーツの団体や競技会がつくられた。これらはどのように今日に受け継がれているか考えよう。	グループごとまたは隣の人と考える。	
まとめ (10分)	考えをクラスで共有するとともに、東京 1964 大会は日本の社会を大きく変えたことを理解する。	東京 2020 大会も日本の社会に大きな影響を及ぼさるうことを考えさせる。	